

山麓探偵団通信

6月号

はたして、春の長雨という言い回しがあるのかどうかわかりませんが、四月上旬はずっと雨空で肌寒く、十六日の探偵団活動の天候も危ぶまれました。しかし、幸運にも当日は晴れで、伊藤浩美団長以下七名、御坂山系のひとつ釈迦ヶ岳に向けて、意気揚々と出発しました。

河口湖の大石から若彦トンネルをぬけ、芦川沿いをのぼって日向坂峠(通称 ドンベイ峠)に駐車、そこから屏風岩(びょうぶいわ)をよじ登り、さらに釈迦ヶ岳山頂までを、ひとりのリタイヤもなく、無事に往復することができました。

エナガやキビタキ、ゴジユウカの親切的な道案内に耳をかたむけ、その姿も間近に確認できるほどでした。スミレ、イチヤクソウ、フデリンドウはどれも可憐で、そつとのぞきこむ登山者を思わず、笑顔にしてくれます。

伊藤団長が登山道脇の石をはがすと、そこはコブハサミムシの産卵場所で、そのうち、孵化した幼虫は生きたままの母の体を食べてつくして巣から出て行くのだという

説明がありました。母虫が、エサを採ってくるわけではなく、自らがエサになるという、とても珍しい生態だということで、一同しばし絶句。さらにその先をすすむと、全身がショッキングレッドのタカラダニもいたりして、街中では害虫呼ばわりされる彼らも、森の中ではちゃんと生存権を認められているのが、当たり前嬉しく感じられました。



屏風岩をよじ登ると、さきほど出会った植物や野鳥、昆虫の名前の記憶が次第にふつとんでいき、

岩肌に振り落とされないようにするのが精一杯です。たしかに団長は、アップダウンがあつたと予告されましたが、これは正しくはアップアップなのではないかと、息もたえだえ思いました。

やつとのことで山頂に着き、二体のお地蔵さん、観音さまに手を合わせ、周囲に連なる美しい山々に吸い込まれそうになりながら、その素晴らしさに感動しました。おそらく釈迦ヶ岳という名前から、修験が所以ではないかと察せられます。

下山道では、ゴジユウカラがキツツキの古巣を再利用する説明がありました。キツツキサイズの大きめの巣穴を、泥でうまく左官して口径を小さくし、中に巣をつくるというゴジユウカラの知恵と芸当におどろきました。

◆ 参加者の感想

M・以前、途中で断念した登山道を、今回は最後まで登ることができ、きつかったけれども、達成感がありました。

K・久しぶりに桜などの花見をしながら歩いてよかった。

O・雪中の先月とうつてかわつての春の中、なにもかもが動き始

めた実感です。

H・はじめての参加で、サプライズがいくつかありました。

M・H・Sの三名が、異口同音にスリルとサプライズに満ちた一日との感想でした。

🌸 第240回 探偵団活動のご案内

山麓で、セミに出会う日

今春、埼玉大学を退官された林正美氏を団長に、山麓の近場で、はじめてこの時期の昆虫、セミに会いにいきましょう。

- ・開催＝六月二十五日(木)
- ・集合・午前9時半 P・まりも
- ・持ち物・昼食・雨具・任意で虫網やルーペ・ポケット図鑑など
- ・参加費 1800円



* 申し込み、問い合わせは二日前までに、左記メールか電話でお願いします。

* 尚、七月、八月の活動はお休みで、九月十二日(土)は、戸高雅史氏を団長に、野外一泊を予定しています。

発行＝ 山麓探偵団事務局

山梨県山中湖村平野二六九八

電話 〇五五五・六五・七〇二三